我が国選挙監視団のパキスタン総選挙視察結果について

平成２５年５月１２日
日本政府選挙監視団

１．我が国政府の選挙監視団は、２０１３年５月９日（木）から１１日（土）まで、パキスタンにおける選挙プロセスを監視した。我が国監視団は、田中信明元駐パキスタン大使を団長とし、外務省職員２名、外部のパキスタン専門家２名、在パキスタン大使館及び在カラチ総領事館員１６名で構成され、７チームに分かれて、イスラマバード、ラワルピンディ、マリー、ジェーラム、ラホール、カラチ（２チーム）において監視活動を実施した。

２．今般の選挙には、多くのパキスタン国民が投票を通じて選挙に参加しており、選挙に対するパキスタン国民の熱意が感じられた。パキスタン国民自身がパキスタンに変化をもたらす意志を持って選挙に臨んでおり、徐々に民主主義が定着している証左と言えよう。

３．今般の総選挙は、パキスタンにおいて連邦下院が初めて５年の任期を全うした後に行われる総選挙であり、同国に民主主義が定着するための試金石であった。この重要性にかんがみ、我が国は、国連開発計画（UNDP）を通じ、①投票所スタッフ研修、②選挙結果集計・公表システムの構築、③有権者に対する啓発活動等からなる「選挙支援計画」として、総額２００万ドルの紛争予防・平和構築無償資金協力を実施した。

４．我が国監視団は、上記６都市の合計１４選挙区、９５投票所において、円滑に選挙プロセスを監視した。もとより、我が国監視団の活動は、時間的にも地域的にも限られたものであり、その活動は今回団員が各地で視認・聴取したり、遭遇したりしたところを基本とするものであることを付言する。かかる監視団の活動を基本にした今回の選挙監視団としての評価は次のとおりである。

（１）パキスタン・タリバン運動（ＴＴＰ）による候補者に対する攻撃があり、限られた地域でのテロ等騒擾が発生したにも拘わらず、パキスタン国民は種々の困難を乗り越えて、全体としては比較的平穏に選挙が実施された。パキスタンの民主主義プロセスの定着において非常に大きな意義を有すると評価出来る。他方、この選挙を通じて１００名以上の死者を出した現実は重く、テロの犠牲者に対して哀悼の意を表する。テロは許されず、非難

されるべきである。この選挙の結果出来る政権にこの問題に取り組むことを期待する。

（２）パキスタン選挙管理委員会は、我が国監視団をはじめ外国監視団に対して一貫して協力的であり、治安上の懸念のある地域を除き、基本的には自由に投票所を訪問することができた。我が国等外国選挙監視団のプレゼンスは、投開票の公正な実施に寄与するところがあったと考える。

（３）今般の総選挙においては、二重投票等の不正を防止するための措置として、ＩＤカードによる本人確認に加え、顔写真入りの選挙人名簿を作成し、また、消えないインクを投票者の指に付着させる等、二重三重の工夫が施されていたことを評価する。また、有権者登録の電子化が進んだことも二重投票の防止に寄与したと評価できるが、非能率・非効率性が生じた面もあり、その結果として、多くの投票所で長蛇の列が出来ることとなった。これも、それだけ公正な選挙を優先したとも言え、また、多数の有権者が投票した結果とも見ることが出来よう。それに対し、投票時間の延長によって柔軟に対応したことは評価できる。

（４）今般の選挙においては、幾つかの不正が報じられたが、全体としてみれば公正な選挙という観点から大きな改善が認められた。我々が監視した限りでは、小さな不正も見られず、民主主義の大きな進歩であると思われる。また、多くの女性が投票したことは評価に値する。

５．我が国は、今般の総選挙によりパキスタンの民主化定着が促進することを期待しており、総選挙後の政治プロセスが円滑に進んでいくことを希望する。我が国は、民主主義の定着に向けたパキスタンの努力を引き続き支援していく考えである。